

番号	7	令和2年度公共事業再評価調書		担当課名 河川海岸整備課		
事業名	総合流域防災事業		事業主体	静岡県		
箇所名	一級河川 境川		市町名	三島市・清水町		
事業採択年度	昭和 48 年度	計画期間	昭和48度 ~ 令和6年度			
用地着手年度	昭和 61 年度	工事着手年度	昭和 48 年度			
再評価理由	再評価実施 (H27) 後5年間が経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H30年度	R1年度	R2年度見込	計
	3,940		3,290	200	170	3,660
事業概要	<p>(1) 事業目的 概ね30年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることで、同規模洪水に対する浸水被害を解消する。</p> <p>(2) 事業内容 全体延長 2,920m 河道改修 2,920m（引堤護岸工、河川法線是正）、橋梁工11橋</p>					
【視点1】	<p>(1) 事業を巡る社会情勢等の変化 境川は、上流域の市街化に伴う流出量の増大により、事業採択時と比べて水害の発生した場合の危険度は増している。近年でも、令和元年10月に発生した台風19号により、新橋付近で浸水被害が発生しており、地元から早急な治水対策が求められている。</p> <p>(2) 事業の投資効果 現時点（R2）の分析結果：B/C=2.9、経済的内部收益率(EIRR) = 14.8% ・総便益（B） 8.19億円 （被害軽減便益 8.10億円、施設の残存価値 0.09億円） ・総費用（C） 2.78億円 （建設費 2.54億円、維持管理費 0.24億円）</p> <p>(3) 事業の進捗状況（令和2年度末見込み） 【事業費】 92.9%（3,660百万円/3,940百万円） 【用地費】 100.0%（14,765m²/14,765m²） 【事業量】 92.5%（2,700m/2,920m）</p> <p>令和元年度までに下流から延長2,700mまでの改修が完了した。今後は、残りの上流区間220mの河川改修を進めていく。</p>					
事業の必要性	評価	継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない				
【視点2】	<p>三島市と清水町の行政界を流れる河川であり、両市・町共に事業に協力的である。事業用地の取得も終了し、計画的に進んでいることから、引き続き、計画通り最後の橋梁（新橋）架け替え工事及び護岸整備を実施できる見込みである。</p>					
今後の事業の進捗の見込み	評価	継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない				
【視点3】	<p>新たなコスト削減・代替案立案等の可能性 工事発生土は、近隣の公共事業に利用している。引き続き、他事業と連携しコスト削減に努めていく。</p>					
対応方針案	<p>(1) 対応方針案 本事業を（継続） ・ 中止 ）する。</p> <p>(2) 理由 本事業は、境川流域の治水安全度を向上させ、浸水被害の解消を図るものである。費用対効果も見込まれ、住民の改修への期待は非常に大きく、地域の安全・安心に寄与することから、事業を継続して早期完成を図る。</p>					

費用便益比算出説明書

一級河川 境川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省水管理・国土保全局 令和2年4月)

総括表

一級河川 境川

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額]＋[施設の残存価値]	819百万円
総費用 C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	278百万円
B/C		2.9

総便益

<p>○治水事業の有無による被害額の差分</p> <p>年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間55年(整備期間5年＋50年)とし、現在価値化する。</p> <p>○施設等の残存価値</p> <p>評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。</p> <p>総便益</p> $B = \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n$ $= 810 \text{百万円} + 9 \text{百万円}$ $= 819 \text{百万円}$

※被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

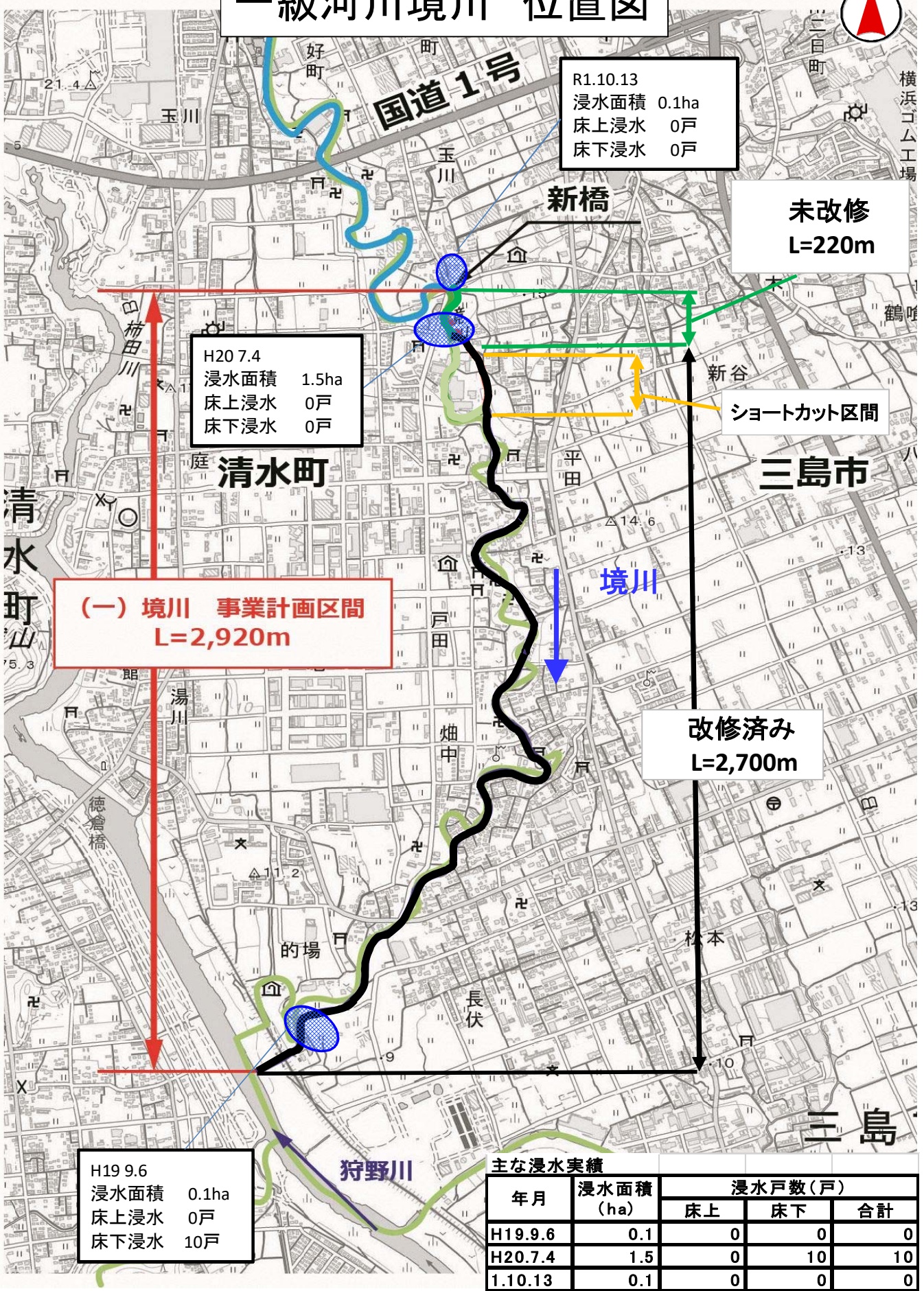
※年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

<p>○事業建設費</p> <p>各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。</p> <p>○評価期間内に必要な維持管理費</p> <p>各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。</p> <p>建設費の0.5%/年、評価対象期間:55年</p> $C = \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n$ $= 254 \text{百万円} + 24 \text{百万円}$ $= 278 \text{百万円}$

一級河川境川 位置図



R1.10.13
 浸水面積 0.1ha
 床上浸水 0戸
 床下浸水 0戸

未改修
 L=220m

H20.7.4
 浸水面積 1.5ha
 床上浸水 0戸
 床下浸水 0戸

ショートカット区間

(一) 境川 事業計画区間
 L=2,920m

改修済み
 L=2,700m

H19.9.6
 浸水面積 0.1ha
 床上浸水 0戸
 床下浸水 10戸

主な浸水実績				
年月	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)		
		床上	床下	合計
H19.9.6	0.1	0	0	0
H20.7.4	1.5	0	10	10
1.10.13	0.1	0	0	0

境川 航空写真 上流区間



現況写真



写真① ショートカット区間下流端より上流を望む



写真② 下流より新橋を望む

標準横断面図

